

# 第1街区第3回大規模修繕工事について：工事の進捗状況

第1街区第3回大規模修繕工事委員長 宮下 清

第1街区大規模修繕工事はお盆休みで8月8日から16日まで休工としましたが、9日に現場事務所職員が新型コロナウイルス感染症を発症し、2週間の観察期間を考慮して22日まで休工を延長しました。その後対策を強化し、感染拡大はなく現在に至っています。

8月28日の定例報告会では、継続検討課題の確認、A・B棟のエキスパンション-ジョイント追加改修検討、補修タイルサンプル確認を行いました。

9月11日の定例報告では、工程の工事進捗率37.6%(9/10時点)で、コロナ休工と9月の悪天候のため8日遅れとのことでした。

現場側からは躯体下地補修の実際の数量の見通し、その他の劣化・不具合箇所の報告がありました。隔て板フレームの腐食、樋バンドの破損、長尺塩ビシート of 膨れなどでした。

今回の報告ではこの時期の主たる作業となる3つの工事項目を写真入りで説明します。

## ① 躯体下地補修

外壁を再塗装する前に躯体の大小の傷（爆裂、ひび割れ）、仕上げモルタルの浮きなどを補修する必要があります。不良部の程度によって6種類の仕様が決められています。



(左) 施工前  
(右) 鉄筋<sup>はっ</sup>筋り出し  
錆落とし後  
(下) モルタル充填

## ② シーリング

材質が異なる部位の境界や挙動が想定される目地などに圧縮・膨張に追随するシーリング材を充填します。



(左) 既存シールの撤去  
(右) シール充填  
(下) ヘラ押え後・塗装前

## ③ アルミ手摺支柱根元の樹脂充填

手摺支柱根元の補強鉄材を雨水の侵入から守り強度低下を防ぐため、支柱の上下2カ所に穴をあけ、下の穴より樹脂を2回注入して穴の高さまで充填します。穴には最後に調圧キャップをはめます。



(左) 1回目注入  
(右) 2回目注入  
(下) 完了(キャップ取付前)